

熱い!!

全国で成果をあげる プロファイnderユーザーの声

「栽培管理の失敗が怖くなくなった！」土生 真人様
(宮城県亶理郡山元町 イチゴ生産者)



地区	宮城県亶理郡山元町
作物	イチゴ（とちおとめ）
台木	-
作型	高設栽培
施設面積	50a
定植	9月上旬～6月中旬
定植本数	8,000株/10a（8株/m ² ）
プロファイnder導入日	2016年4月

【導入したきっかけは？】

私のハウスは東日本大震災の震災復興事業で建てたものです。ハウスは今までのパイプ連棟ハウスから鉄骨ハウスに変わりました。暖房機やCO₂発生機もありましたが、正直使い方がわかりませんでした。収量を安定させたいという気持ちから光合成細菌など色々な資材を試しましたが、どれも十分な効果を実感できませんでした。当時は管理も収量も「こんなもんだらう」という感じでした。そんなとき、同じ地区の生産者に導入されたプロファイnderと出会い、誠和の営業の方の説明を聞きました。これまでの栽培管理の中で腑に落ちていなかったこと、気にしていなかったことの話があり、環境制御への期待感から導入することに決めました。

【導入した感想は？】

栽培管理の考え方が大きく変わりました。以前は、カーテンの開閉や電照の点灯は周辺の生産者がやり始めたら自分のハウスでもやろう、ハウスに入って暑いと感じたら換気を開けよう、など管理基準があやふやでした。今は光合成を基準に考え、日射や湿度などの変化を意識するようになりました。例えば、かん水は積算日射に応じて回数を増やし、換気も湿度変化に合わせて天窓の開閉幅の調整をしています。日平均気温を意識して管理するようになってからは、特に花房のあがり方が見違えるようになりしました。栽培管理に反応してくれるイチゴを見るとうれしくなります。導入1年目は失敗もたくさんありました。ただ、これまでとの大きな違いは失敗の要因が何だったのかが見当つくようになり、同時に次回の対策も考えられるようになりました。以前のように天候のせいにはできなくなってしまいました。自分が制御しきれなかっただけです(笑)。1年目で手応えを感じ、2年目は別のハウス用と外気象用に追加で2台導入しました。外気象用を導入したことで、ハウス内外の環境差を把握できるようになり換気や暖房の管理幅が広がりました。改めて使ってみないとわからないことが沢山あると実感しました。誠和のセミナーにも積極的に参加するようになっています。環境制御の話は1度聞いただけではイメージがでないし、実際に自分のハウスの課題が見えてきてから理解できることもあると思っています。勉強会に参加するたびに必ずひとつは気付きがあり、受講中でも早く自分のハウスで実践したい！！と毎回そわそわします。

【今後の抱負は？】

地域としてはイチゴは5t/10aの収量があれば良いと言われています。前作で6tを達成することができました。将来的には10tと思っています(笑)。まずは8tを目指していきます。2年前は「10tなんて？」と思っていましたが、今では日々の管理の中で実現できる目標だと感触を得ています。父親から経営を引き継ぎ今後も環境制御に取り組むと共に規模の拡大を考えています。現状に満足することなく、より魅力のある経営とは何かを追求していきます。また、地域としても周辺の生産者と情報を共有しお互いを高め合い、地域を引っ張っていけるような存在になれたらと思っています。

【誠和担当者からの一言】

今年度入社した仙台営業所の原田です。土生さん、収穫時期のお忙しい中インタビューを受けていただきありがとうございました。土生さんと初めてお会いしたとき、管理に関する質問やこれまで取り組んできた環境管理の工夫の多さに驚いたことを覚えています。最近、土生さんは同じ目標を持った仲間同士でSNS等を使い情報交換することに力を入れているとお聞きしました。他産地の生産者へ見学に行ったり、新しい情報を自分のハウスで実践する姿からは強い実行力を感じます。その力は土生農園キャップやのぼり旗の制作にも注がれ、職場内の雰囲気改善に一役買っているそうです。誠和としてこれからも土生さんの挑戦的な取り組みに貢献できるよう努めていきます。